

2018年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2019年3月

学校法人亀ヶ谷学園

幼稚園型認定こども園・宮前幼稚園

① 園の教育目標

- ・わくわく生き活きと輝き創造的にあそべる子ども
 - ・わくわく人が好きになり、人に好かれ、思いやれる子ども
 - ・わくわく響関の言葉が言え、秩序が気持ち良いとcanじられる子ども
- わくわく響き合える豊かなところをもった子ども

② 本年度に定めた重点目標

認定こども園移行初年度であることも踏まえ、以下の3つを重点目標として定めた。

- ・子どもたちの主体的なあそびや生活の実現
- ・園内研修を通して課題解決を図り、保育の質を高め、保育者の専門性を深める。
- ・在園時間が異なる子どもたちへの配慮について

③ 具体的評価項目の達成及び取り組み状況

項目	評価	取り組み状況
教育目標	A	園の教育目標については全ての職員が共感・理解し、日々の保育実践を通して実現できるよう努力して取り組んでいる。
保育計画	A	子どもの興味・関心から計画を立案できるように配慮している。子どもたちの興味・関心が高いあそびをウェブマッピングの方法でより遊びが豊かになるような環境を考えたり、教材研究を行ったり、子どもの姿をベースにしながら質の高い教育・保育の展開を目指している。
保育環境	A	自然豊かな園庭環境の維持・向上に努めている。 自然環境の豊かさを生かした自然あそびも積極的に行っている。 室内の環境も子どもの感性を刺激する絵画や美術品などを配置し、子どもの感性が豊かに育まれるように工夫している。
安全への配慮	A	リスクとハザードの観点から、子どもたちが挑戦できる環境を残しながら、ハザードは限りなく0に近づける環境を目指している。子どもたちが挑戦できる環境や、その中での育ちについて、川崎市看護師部会の看護師さんや公立保育園園長先生が視察に来られ意見を交わす機会もあった。
チーム保育・同僚性	A	年齢・経験年数が異なる幅広い保育者集団の中で、それぞれが尊敬の念を持ちながら接することを大切にしていきたい。業務上の課題については、建設的な話し合いを通しての解決を目指している。

		同僚性向上のために、大学教授に定期的に園内研修を実施していただき、法人としての重要課題として取り組んでいる。その取り組みの成果もあり今年度の退職者は0名であった。(全職員67名)
保育内容・方法	A	一人ひとりを大切にした保育実践を職員の目標としている。子どもたちのケンカやトラブルの場面も育ちのための一場面と捉え、教育的な意図をしっかりと持って対応していけるようにしていきたい。
保護者とのかかわり	A	ポートフォリオや写真等、可視化された記録を用いながら子どもの育ちを伝える文化が根付きはじめている。子ども真ん中に、園と保護者が手を取り合っって子どもの育ちにかかわる関係性を築いていきたい。
職務の遂行	A	それぞれ自分の役割を自覚し、責任を持って業務にあたっている。
専門性の向上	A	外部研修にも積極的に参加してきた。 特に重点目標に掲げた、在園時間が異なる子どもへの配慮については、園の取り組みを文部科学省主催の中央協議会で神奈川県代表として事例発表を行い、専門性の向上に努めている。
食育	B	これまで使用していた畑の移転年度のため、秋のさつまいも掘りを経験できなかった。その反面、給食委託会社ミールケアと協力しての食育活動を各学年1回以上行うことができた。
子育て支援	B	園庭開放あおぞら広場では、平均20組以上の未就園児親子が来園し、園庭でのあそびを楽しんでいた。 すくすく広場では登録者数も多く、予約が取りづらい状況が続いてしまったことが課題である。
地域との連携	B	認定こども園へ移行したことにより、これまで以上に川崎市や宮前区といった行政とのつながりが深まった。 子どもたちが地域に出かけたり、地域資源を生かした活動が十分に行えなかった。

④ 総合的な評価結果

A	幼稚園型認定こども園としてはスタートの年であったが、従来より預かり保育にも対応していたため大きな混乱なくスタートすることができた。これまで大切にしてきたあそびの中での学びを中心としながら、在園時間の異なる子どもたちへの配慮も含めて園生活全体の教育・保育の質向上を目指すことができた。
---	---

評価

A：十分達成されている

B：達成されている

C：取り組まれているが、成果が不十分でない

D：取り組みが不十分である

⑤ 今後取り組むべき課題

食育活動	園児用の畑の移転年のため、秋のさつまいもほりが経験できなかった。 来年度はホール横に miyamaefarm が使用可能になる予定である。これまで以上に食育活動を行いやすい環境となるため、子どもたちとの対話を通ながら豊かな食育活動を行っていききたい。
地域との連携	教育課程に係る教育時間は、これまでのカリキュラムがあり十分な時間や機会をとることが難しかった。午後の保育を過ごす子どもたちが増えたことで保育の可能性が広がったと捉え、地域との連携を充実させていきたい。

⑥ 施設関係者評価（自己評価の結果を踏まえて実施）

宮前幼稚園が子どもも保護者も大好きで通えていることが幸せであり、このままの良さを継続して行って欲しい。認定こども園となることで、“変わってしまうのか、”という先の見えない不安があった。特にサークル活動など、保護者活動はこれまで通りのやり方は難しいという意見があったが、対話を通して互いに理解しあっていくことが重要だと感じた。

園が進めている ICT 化（手紙・欠席連絡・預かり保育予約など）は保護者としても便利でとても良い。

ミールケアさんの給食がとても美味しいという評判なので試食をできるととても嬉しい。